

クリーンセンターごみ処理施設の建て替え（広域化） についての説明会における質疑概要（第7回）

この概要は、平成25年7月3日（水）第三中学校にて開催した説明会における質疑応答・意見についてまとめたものです。

説明会にご参加できない方にも、説明会当日の質疑等の内容をわかりやすくお知らせするために、重複した質問・意見の省略をしていることをご了解ください。

1. 広域化全般について

Q：インターネットで、「日野市は金が欲しいのだろう。こっちは金を出すのだから文句を言うことはないだろう」などという小金井市民の書き込みがたくさんある。小金井市民の問題点は、エゴむき出しな点であり、ごみ問題は深刻でありながら、誰も本気で考えていない。

A：そのような書き込みがあるということは確認していますが、内容が正しいかは分からないと考えます。小金井市は、資源化は全国で1番進んでおり、ごみ減量も全国2位の状況にあり、努力しているということを理解していただきたいと思います。

Q：日野市の広報では「ごみ処理の広域化を進める」と、小金井市との間で決定しているような書き方をしているが、小金井市のホームページには、日野市との広域化計画について、全く取り上げられていないのはなぜか？

A：決定したことではないため、小金井市が掲載する段階ではないと考えます。

Q：新石自治会は98%、新井自治会は2/3が反対署名をした。このような中、市はこれからの進め方、地元の理解をどのように得るのかを、資料のフローに入れていただきたい。広報にも掲載していただきたい。

A：地元の方々に直接説明をしていない状況での署名であったため、昨年から地域の方々に戸別説明をさせていただきました。「反対である」という意見もあれば、「話を聞いてみて色々あることがわかった」という意見もありました。これからも丁寧に説明させていただきながら、きちんとした内容を理解いただくための時間を作っていきたいと考えています。

Q：前市長が「65%の反対があっても私はやる」と言明したという照会をしたら、「あの話はごみ指定袋を採用した時の反対の数字であり、今回とは関係がない」との回答があった。話があったのは広域化の説明の時である。なぜ、あの時にそのような事を言ったのか？

A：話があったのは、もちろん、ごみ広域化の説明の席です。馬場前市長が、首長として決断するときの例えとして、「ごみ有料化の時には、65%の反対があったが、私は決断した」という話をさせていただきました。

Q：65%の反対が仮にあった場合にはやらないということによいのか？市長は、「馬場前市長の後継者として、今回のごみ広域化を踏襲する」と新聞でも述べているが、考え方は違うとの理解で良いか？

A：多数決で決めるというのは難しい問題です。例えば、私は4月の選挙で、ごみ問題が結果的に争点になり、当選しましたが、それを基に広域化を進める判断をするつもりはありません。仮に住民投票で広域化が賛成になったとしても、地元が反対という時には、住民投票で決まったことであっても広域化は難しいと考えます。少なくとも多数決でこの問題を強行することは考えておりません。

2. 費用関係について

Q：建設計画について条件付賛成である。小金井市が何年かかってもできないことを、日野市に平等の立場で申し込むのはおかしい。建設費、周辺環境整備費を2市で全額負担するのは当然のことと考える。

A：費用負担割合は決まっていません。全国の広域化の状況を見た場合、7割程度はごみ処理量の割合で費用負担をしているため、ごみ処理量割合で試算をしています。周辺環境整備費は2市で全額負担することになっていますが、建設費はそのような話にはなっていません。出来ることであれば（建設費が実質）2市の負担となるような交渉を進めていきたいと考えています。

3. 環境影響について

Q：大型焼却炉の導入はプラスチックを燃やすことにつながる。日野市のごみ処理行政をひっくり返すことはしないでください。プラスチックを燃やしてはいけません。

A：（リサイクルできる）プラスチックを燃やす予定はありません。小金井市、国分寺市はすでにプラスチックの分別を行っており、日野市でも分別を進める予定です。

Q：排気ガスについて説明があったが、八王子市南大沢で問題になっているのは、生ごみの臭いである。江東区のごみ戦争も生ごみが問題であった。排気ガスではなく生ごみが問題であり、他市から生ごみを持ってこられたら周辺の人にはたまらない。

A：八王子市南大沢は、焼却施設ではなく生ごみの堆肥化施設です。生ごみを資源化する際には確かに臭気の問題があります。新しい施設は、最新の環境対策を行うので、そのような環境汚染はないとご理解ください。

4. その他

Q：バイオマスの話があったが、生ごみは資源であり、自分自身で処理できるものであり、私は可燃ごみとして出していない。日野市は生ごみの資源化が遅れている。これを機会に、生ごみを資源化して、処理できないものをどのように処理するか市と協議すればよい。

A：生ごみの処理量を減らすことがごみ減量化に一番つながります。生ごみの堆肥化、メタン発酵等で、より一層の減量化を進めていきたいと考えています。そのような施策をしても残るごみを焼却処理するという考えで計画を進めていることをご理解いただきたい。

5. 意見

- ・焼却炉の建て替えをどうするのか、ごみ減量をどうしてきたのか、これからどうすべきなのかを、日野市民が主体的に考えることが出発点であるべき。新しい市民・若い市民を含めて、最初から議論する場を設置して欲しい。
- ・地元の理解を得て進めるといいながら、前回の広報から「地元の意見を聞く、地元の理解を得ていく」がなくなっている。
- ・説明を聞いて、勉強して、広域化に賛成という意見に変わった。小さいものを幾つも造るよりも、ある程度のところでまとまってやる方が良い。谷戸沢処分場の状況を見てきたものとして、ごみを減らそうということを市民団体としてやってきたものとして、ごみの広域化に賛成する。
- ・ばいじん等のデータを「見える化」して欲しい。
- ・クリーンセンター地元の方々は、色々な面で苦勞していると思う。ありがとうございます。現時点でも、日野市は、焼却灰や不燃ごみを日の出町に持っていき、迷惑をかけている。その運搬でも他の市町村を通り、迷惑をかけている。三多摩は一つという言葉もあるが、このようなことも考えなければならない。
- ・ただ反対ということではなく、条件として、小金井市、国分寺市に積替え施設を作り、日野市に持込む台数を減らすことができれば、地元の理解もいただけるのではないか。
- ・条件付きな話はこれからだと思うが、細かいことはアイデアを出し合いながら、上手くまとめていただきたい。
- ・発言中に（野次等の）声を入れしないでください。
- ・ごみを埋めるとでトラブルが起きるので、埋める量を減らすべきだ。
- ・賛成ならば、賛成の人がいる地域に建設してほしい。